

短大特任教員教育研究業績書

平成 30年 5月 1日

氏名	ふりがな	所属	職位	性別
森本 利夫	もりもと としお	保育学科 通信教育課程	教授・准教授・講師・ 助教	男 女

担当科目名

教育の方法と技術

学 歴

和暦(西暦)年 月	事 項	学位
昭和 50 (1975) 年 4月	花園大学文学部史学科 入学	
昭和 54 (1979) 年 3月	花園大学文学部史学科 卒業	学士(文学)
平成 18 (2006) 年 9月	高野山大学大学院文学研究科博士課程(前期課程) 入学	
平成 23 (2011) 年 3月	高野山大学大学院文学研究科博士課程(前期課程) 修了	修士(密教学)

教 育 歴 ・ 職 歴

名 称	期 間	教育内容又は業務内容
財団法人今日庵 今日庵文 庫研究員 茶道資料館 学芸員	昭和 54 年 4月～昭和 57 年 3月	茶道文献及び茶道具などの美術品・史料の研究と展示 特別展図録作成
兵庫県立尼崎南高等学校 非常勤講師	昭和 57 年 4月～昭和 59 年 3月	現代社会、政治経済
兵庫県立伊丹北高等学校 非常勤講師	昭和 57 年 4月～昭和 59 年 3月	倫理、日本史
尼崎市立尼崎工業高等学校 非常勤講師	昭和 57 年 4月～昭和 59 年 3月	日本史
兵庫県立尼崎南高等学校 常勤講師	昭和 59 年 4月～平成元年 3月	社会科全般、担任、教務部、 剣道部顧問(全国大会2回引率)
学校法人浜田学園 西宮経 理専門学校 専任講師	平成元年 4月～平成 9 年 3月	高等部(現代社会、日本史、簿記) 近大短期大学部併修コース(情報処理、歴史)
会社員	平成 9 年 7月～平成 14 年 1月	総務全般
学校法人濱名学院 関西保 育福祉専門学校 保育科 専任講師	平成 15 年 7月～平成 29 年 3月	宗教学、情報と教育方法、情報機器の操作、日本国憲法、 保育実習指導、担任
厚生労働省兵庫労働局 伊丹公共職業安定所 職業相談員	平成 29 年 4月～平成 30 年 3月	若年向職業相談
学校法人三幸学園 小田原短期大学	平成 30 年 4月～現在に至る	保育学科通信教育課程 教育の方法と技術

所 属 学 会 等

名 称	活動期間	活動内容(役職等の活動を含む)
日本仏教教育学会	平成 20 年 6月～平成 29 年 3月	大会参加、口頭発表
幼児教育史学会	平成 20 年 10月～平成 22 年 12月	
日本教育実践学会	平成 26 年 4月～平成 29 年 3月	
日本保育学会	平成 26 年 4月～現在に至る	大会参加、口頭発表、パネル発表

社 会 活 動 等

名 称	活動期間	活 動 内 容
兵庫県立農業高等学校	平成 26 年 1月	出前授業「電子紙芝居を楽しもう」
兵庫県立鈴蘭台高等学校	平成 26 年 1月	出前授業「保育士・幼稚園教諭の仕事について」
宝塚市シルバー人材センター	平成 26 年 2月	育児リーダー講座「リーダーと伝統文化」
大阪府立渋谷高等学校	平成 27 年 1月	出前授業「保育士・幼稚園教諭の仕事について」
兵庫県立香風高等学校	平成 28 年 1月	出前授業「保育の歴史」

担当教科目に関する資格・免許等				
名称	取得年月	取得機関		
高等学校教諭免許状	昭和54年3月	京都府教育委員会		
中学校教諭免許状	昭和54年3月	京都府教育委員会		
研究実績に関する事項				
代表的な著書、論文等の名称	単著共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌又は発表学会等の名称	概要
(学術論文) 1. 明治期における真言宗系幼稚園について	単著	平成24年3月	日本仏教教育学会 『日本仏教教育学研究』第20号	明治期における真言宗寺院三派による足利幼稚園・今治幼稚園・成田幼稚園の沿革と保育内容を比較し、創立者の仏教保育と幼児教育に対する思想を歴史的に検証した。(pp:191~196)
2. 明治期における尼崎の保育福祉に関する歴史的考察	単著	平成26年3月	関西保育福祉専門学校 『研究紀要』第1号	明治期の尼崎において最古の幼稚園である博愛幼稚園と、児童養護施設の琴浦育児院の史資料を基に、創立者の教育観と教育実践について検証し、合わせて、その後の社会的影響による両機関の動向を明確にした。(pp:1~14)
3. わが国におけるフレーベル主義の幼児教育思想に関する研究	単著	平成27年3月	関西保育福祉専門学校 『研究紀要』第2号	米国婦人宣教師らをフレーベル主義者(フレーベリアン)とし、彼女たちの著書や実践を通して、わが国におけるフレーベル主義の受容と変遷に関わる近代幼児教育史を概括し、基本的文献及び資料の紹介と先行研究の整理をすることで、改めてフレーベル主義保育の展開とその幼児教育思想の研究における今日的意義を明らかにした。 (pp:56~65)
4. 兵庫県における農繁託児所について	単著	平成28年3月	関西保育福祉専門学校 『研究紀要』第3号	農村における託児所設置の動向は大正末期から昭和にかけて多くみられる。その大部分は農繁託児所(農繁期託児所・農村託児所・季節託児所)の臨時施設である。兵庫県の場合、農繁託児所の設置数は1929(昭和4)年には420カ所に上り、全国一となっている。同県における農繁託児所の特徴と設置数が全国一となった理由について史資料をもとに明らかにした。 (pp:11~20)
5. 農繁託児所と仏教保育ー特に兵庫県を例としてー	単著	平成28年3月	日本仏教教育学会 『日本仏教教育学研究』第24号	臨時保育施設である農繁託児所の経営主体は、村・小学校・農会・寺院・仏教団・婦人会・児童愛護会・村内非農業婦人・篤志家などで、中でも寺院が最も多い。保母には主に住職夫人、小学校の女教員、婦人会員、村内非農業婦人などが当たっていた。本研究では、なにゆえ仏教寺院が積極的に農繁託児所の経営を行ったのか、またその保育内容は如何なるものであったのか、同託児所設置数が全国一であった兵庫県を例に取り上げ、浄土真宗本願寺派の花円淵澄が著した『すぐに役立つ農繁期託児所の理論と実際』などの文献をもとに明らかにした。 (pp:149~155)
6. 大阪における露天保育と家なき幼稚園の保育	単著	平成29年3月	関西保育福祉専門学校 『研究紀要』第4号	近代的な教育や制度が普及した大正期の大阪において、いわゆる「自然に帰る」主義が盛んになり、今日という「青空保育」である大阪

<p>内容・方法に関する一考察</p> <p>(教育実践記録等)</p> <p>1. 教職課程の情報教育におけるアクティブラーニングの試み</p> <p>2. PBL 教育を導入した教職課程における『日本国憲法』授業の試みー国会および政党と国民投票の疑似体験を通してー</p> <p>3. 保育者養成における情報学習成果物についてのポートフォリオ・ルーブリック型評価の検討と課題</p> <p>(研究発表)</p> <p>1. 非宗教系養成校における仏教保育の導入について</p> <p>2. 保育者養成教育におけるバーチャル教材を利用した授業方法</p> <p>3. 寺院における農繁託児所ー1930年代を視点としてー</p>	<p>単著</p> <p>単著</p> <p>単著</p> <p>単独口頭発表</p> <p>単独口頭発表</p> <p>単独パネル発表</p>	<p>平成 27 年 3 月</p> <p>平成 28 年 3 月</p> <p>平成 29 年 3 月</p> <p>平成 20 年 11 月</p> <p>平成 27 年 5 月</p> <p>平成 28 年 5 月</p>	<p>関西保育福祉専門学校『研究紀要』第 2 号</p> <p>関西保育福祉専門学校『研究紀要』第 3 号</p> <p>関西保育福祉専門学校『研究紀要』第 4 号</p> <p>日本仏教教育学会第 17 回学術大会華頂短期大学</p> <p>日本保育学会第 68 回学術大会椋山女子大学</p> <p>日本保育学会第 69 回学術大会東京学芸大学</p>	<p>市の「露天保育所（幼稚園）」と当時キルパトリックや倉橋惣三などが絶賛した「家なき幼稚園」が開設された。これらは建物がなくても保育はできるという観点から自然主義とその観察重視による実践であった。本研究は、これら両幼児教育における保育内容・方法を概括して比較検討し、両者の終結理由についても明らかにした。(pp:23～32)</p> <p>公開授業「バーチャル工場見学をしよう」DVD収録の披露を行い、ライトカード作成による班別ディスカッション、指導案作成、班別発表に至るまでとアクティブ・ラーニング導入の成果を実践報告した。(pp:47～55)</p> <p>法学を専門としない保育科学生に「日本国憲法」を如何にわかりやすくかつ興味を深められるかという授業課題に対して、なぜ憲法と共に生きているのかという問題提起を学生に投げかけ、学生自身が国会及び政党と国民投票の疑似体験させることで憲法がより身近に感じられるようアクティブ・ラーニングに繋がる PBL 教育の手法で行った。本研究はその分析と成果の実践報告をしたものである。(pp:1～10)</p> <p>保育科 1 年生の授業「情報と教育方法」の中で、保育現場で活かせる電子紙芝居制作とその発表をアクティブラーニングの手法で実践した。その教育方法を報告し、学生の学習成果物についてのポートフォリオとルーブリック型評価の検討をし、その課題を提示した。(pp:33～38)</p> <p>被宗教系養成校とはいえ、実習先では寺院経営の幼稚園や保育園もあり、学生は仏教保育を体験することになる。その仏教保育とは何かを明確にし、合わせてその取り組みにおける学生の反応と意識調査の結果を報告した。</p> <p>インターネット Web サイトから「バーチャルひがしやま動物園&植物園」や「バーチャル工場見学」など園外保育の予定準備を兼ねたものに限定した教材を利用し、対象年齢である年長児に向けて学生たちが業の目標をもとに、如何に能動的学習ができるか、アクティブラーニングの手法を取り入れながら、その授業展開を検討し、合わせてその効果について実践報告した。(発表 ID730)</p> <p>1930 (昭和 5) 年の内務省社会局社会部による「全国季節託児所概況」と題する調査報告によれば、開設場所は寺院が最も多く、経営主体も同様であった。古義真言宗社会課『寺院と児童教化事業』(1938 年)や真宗大谷派社会課『農</p>
--	--	--	--	---

4. 「露天保育と 仏教寺院—大正 期の大阪市を中 心として—」	単 独 発 表	平成 28 年 12 月	日本仏教教育学会 第 25 回学術大会 愛知学院大学	<p>『繁期保育事業のすすめ』（1931）など当時の文献をもとに寺院における一日の保育内容や年間保育行事を明らかにし、寺院の農繁託児所開設の目的を明らかにした。（発表 ID11003）</p> <p>大正期には、明治期におけるフレーベル恩物批判、モンテッソリ法、キルパトリックのプロジェクト法、及川平治の分団式動的教育法、土川五郎の律動遊戯・表情遊戯など、多くの新たな保育方法が実践された。その中の一つとして、今日の「青空保育」にあたる「露天保育」があり、大阪市で公立幼稚園として初めて実施された。それは、当時の六大都市の中で幼児教育に最も熱心であった同市にとって、付近の施設や自然環境を利用し、園舎を必要としない「露天保育」が簡易で経費のかからない好都合な保育方法であったからである。その協力施設の一つが仏教寺院であった。本研究は、露天保育の内容と方法を明らかにし、かかる仏教寺院が如何にして協力したのか、また双方の関係を探り、その意義を究明した。</p>
(その他)				
その他 (表彰等)				